

2022 年 5 月 13 日

横浜ゴム、工業資材製品へ実装するセンシングシステムのフィールド実証テストを開始 － RFID を利用し遠隔監視と損傷予知技術の確立を目指す －

横浜ゴム（株）は、国内外ユーザーの協力を得て、RFID[※]を内蔵したマリンホースとコンベヤベルトのフィールド実証テストを開始しました。本フィールド実証テストでは、マリンホースやコンベヤベルト内部において通常の点検では確認できない微細な状態変化を独自に開発した RFID により検知し、遠隔で監視可能なことを実際に稼働している製品で検証します。

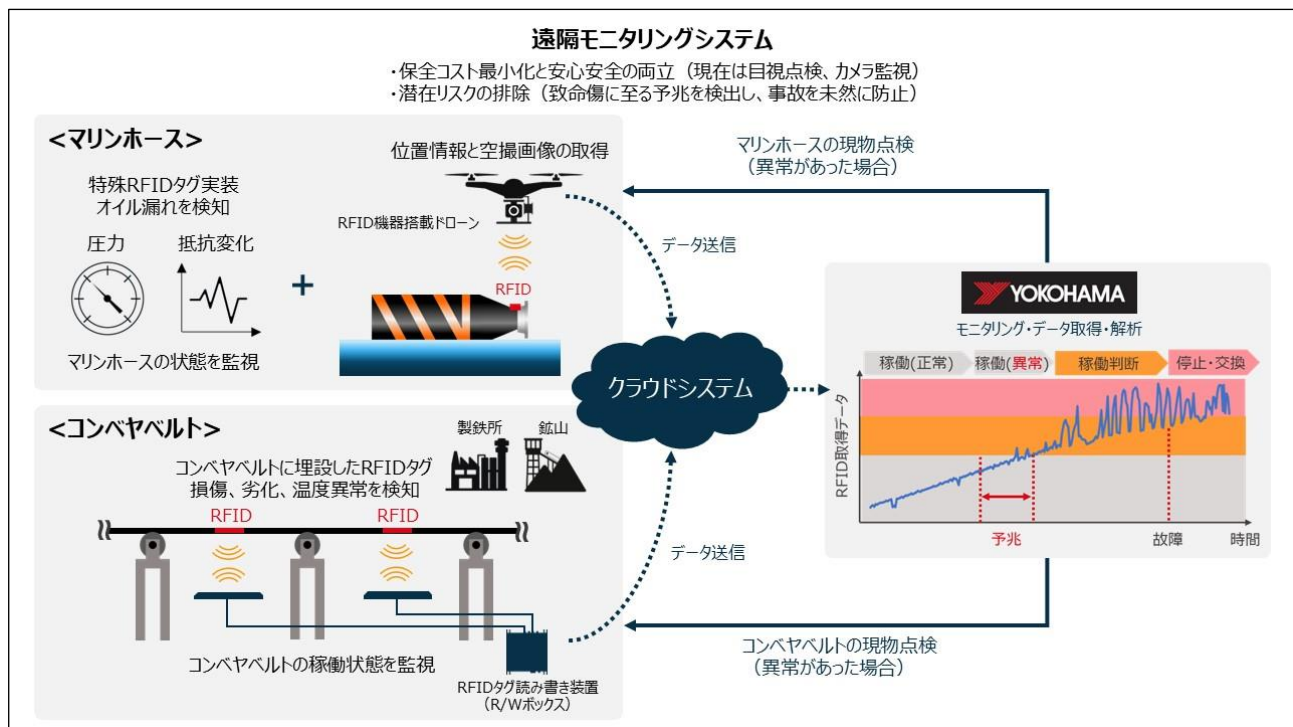
※RFID（Radio Frequency Identification）＝電波を用いて情報を非接触で読み書きする自動認識技術

マリンホースでは、内部損傷による内圧変化などを検出可能な RFID タグを内蔵し、そのタグの情報を外部からスキャンして読み取ることで異常を検知します。現段階ではタグの読み取りは人が行っていますが、今後はドローンによる自律検知の実現やインターネットを利用した情報共有システムの構築を図ります。これにより、マリンホースの異常を早期に発見し、損傷を予知することでオイル漏れを予防するシステムの実現を目指します。

コンベヤベルトでは摩耗、損傷、温度変化などを検出可能な RFID タグを内蔵し、そのタグの情報を周囲に設置したアンテナによって自動で読み取り異常を検知します。今回のフィールド実証テストでは、RFID で検知された稼働中のコンベヤベルトの各種数値データを常にインターネットを経由して当社の開発部門へ送ります。これらのデータを分析することで、コンベヤベルトの損傷や火災を予知する技術の確立を目指します。

工業資材事業は当社の 2021 年度から 2023 年度までの中期経営計画「Yokohama Transformation 2023（YX2023）」（ヨコハマ・トランスフォーメーション・ニーゼロニーサン）において MB 事業の成長をけん引する柱のひとつであり、コンベヤベルトでは「得意市場での圧倒的プレゼンスの確立」、海洋事業では「高シェア維持」を目標に掲げています。この実現に向けた活動の一環として、工業資材の遠隔監視および損傷予知技術を確立し、ユーザーの安心・安全と経済性を提供する新たな付加価値を創造していきます。

<遠隔監視と損傷予知技術が実現するサービス像>



このリリースに関するお問い合わせ先

横浜ゴム（株）経営企画部 広報室 担当：池田

TEL：03-5400-4531 FAX：03-5400-4570